

調査報告 3

少子高齢社会に期待される図書館の役割 — ヘルシンキ中央図書館の視察から —

中村学園大学 流通科学部

手 嶋 恵 美

1. はじめに

本報告書は、中村学園大学流通科学研究所の令和元年度夏期実地調査の一環として、少子高齢社会における図書館の役割という視点からヘルシンキ中央図書館「Oodi」を視察した内容をまとめたものである。

本報告書では、視察内容の報告に加え、先行研究からの引用をもとに、フィンランドおよび日本における少子高齢化や種々の社会的変化の比較を行い、公共図書館のあり方や期待される役割について考察を行う。

2. ヘルシンキ中央図書館「Oodi」の概要

2019年8月、国際図書館連盟(IFLA)が2019年度の「Public Library of the Year」を発表し、フィンランドのヘルシンキにある中央図書館「Oodi」(以下「Oodi」)が選ばれた。

「Oodi」は2018年12月にフィンランドの首都ヘルシンキ市の中心部に誕生した公立図書館である。フィンランド政府観光局によると、ヘルシンキ中央図書館の建設プロジェクトは2017年の独立100周年のメインプロジェクトとして国に指定され、市民が参画しながら進められてきた。一般公募1,600件以上の候補から選ばれた「Oodi」はフィンランド語で「頌歌(しょうか)」という古代ギリシア劇で歌われる神の栄光や人の功績などをたたえる賛歌のことで、独立100周年を祝福する気持ちや、文化や芸術を愛するフィンランド人への贈り物という意味を込めて名付けられた。「Oodi」のコンセプトは人々が交流するリビングルームで、観光に便

利なヘルシンキ中央のカンサライストリ広場に位置し、すべての人々にとって開かれた文化の発信地となっている。広さ17,000平方メートルの広大な敷地に建てられた図書館はフロアごとに特徴があり、人々が活発に行き交う入り口となる1階はカフェや映画館、展示場、イベントホールなどがあり、2階は仕事や学びのためのフロアとして、ワークショップができる会議室やさまざまなスタジオ、個室、設備の整った工房などがある。3階は本の楽園をイメージしたフロアで約10万冊の本や資料が保管されている。3階フロアにはコーヒーショップも設置されており、コーヒーを飲みながらバルコニーから街の景色を眺めることができる。「Oodi」のデザインは、ヘルシンキを拠点にして国際的に活躍するALA・アーキテクトが担当し、ガラスと鉄の構造と木を用いた印象的な外観は、伝統技術と現代建築を組み合わせしており、フィンランド建築らしく環境にもやさしい建物となっている。

「Oodi」公式HPによると、開館時間は月曜日から金曜日が午前8時から午後22時まで、土曜日と日曜日は午前10時から午後20時までとなっており、12月6日の独立記念日、12月24日のクリスマスイブ、12月25日のクリスマス、12月26日のボクシングデーの年4日の休館日(12月31日は時間を短縮して営業)以外は毎日開館し、様々なサービスや「場」の提供を行っている。

筆者は、2019年8月20日(火)の午後と22日(木)の午前中に「Oodi」を訪問し、そのサー

手嶋恵美

ビスや設備について調査を行った。

写真1：「Oodi」外観



出所：筆者撮影

館内に入ってすぐに目に留まるのは1階に設置された広々としたインフォメーションカウンターであった。ここではセルフサービスで本の貸し出しや返却ができるだけでなく、広い館内で行われているイベントやワークショップの案内、ワークスペースの予約等の様々な情報をワンストップで入手することができた。一面ガラス張りの1階は隣接する広場を一望できる解放感溢れる空間となっており、伝統的なフィンランド料理が食べられるカフェは食事やティータイムを楽しむ人々で賑わっていた。図書館や公共施設によくある「お静かに」といった掲示は見られず、全体的に明るく、リラックスした雰囲気となっていた。

2階は主にワークスペースとなっており、老若男女様々な人たちが会議スペースで話し合いをしたり、個室でパソコンに向かっていたり、3Dプリンター等の大型機械を備えた工房で作業に没頭したりする姿を見ることができた。多数のデスクトップコンピューターが並ぶスペースでは、インターネットサイトを閲覧したり、ゲームに熱中する人々で溢れていた。

写真2：パソコンゲームに熱中する人々



出所：筆者作成

3階は図書フロアとなっており、広々としたフロアには圧迫感のない背の低い本棚が設置され、ジャンルごとに整然と本が並べられている様子はよくある図書館の光景であった。日本の図書館でもよく見かける、たくさんの本やノートを広げ勉強することもできる机とイスのセットが設置されていることに加え、ガラス窓の外へ向けて並べられた一人掛け用チェア、スッポリと内に籠ることができる球状チェア、自宅のリビングのようにゆったりと座って過ごすことができるソファ等の様々なタイプのイスやソファが設置されているのが印象的であった。

写真3：ガラス窓の外に向かって並ぶチェア



出所：筆者撮影

写真4：球状チェア



出所：筆者撮影

写真6：階段を使って高低差を付けることで様々な来館者に快適な空間を提供



出所：筆者撮影

写真5：自宅リビングのようなソファコーナー



出所：筆者撮影

写真7：図書フロアにズラリと並ぶベビーカー



出所：筆者撮影

さらに、広いフロアに異なる高さの書棚や観葉植物等を配置したり、階段を使って床に高低差をつけたりすることで、ベビー&キッズコーナー、おしゃべりやボードゲームに興じることができるコーナー（「Oodi」ではボードゲームの貸し出しも行っている）、静かに本を読んだり、ゆっくり外を眺めたりできるコーナー等、“ゆるやかな”コーナー分けができており、適度な賑わいを感じながらも、パーソナルスペースを確保でき、来館者それぞれがリラックスして過ごすことができる空間が構築されていた。

写真8：図書フロアの真ん中でボードゲームに興じる若者たち



出所：筆者撮影

実際に各フロアに足を運んでみて、「Oodi」は「調べものをしたり、本の貸し出しをする施設」という今までの図書館の概念を覆す、気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごすことができる市民にとっての「憩いの場」であると身をもって感じる事ができた。様々な利用目的の来館者が互いに最低限のマナーを守り、他者への配慮はしつつも、全体として自由でリラックスして過ごすことができる空間であった。また一人であっても孤独や疎外感を感じることはなく、他者の気配や賑わいを感じながら、プライベートな時間を楽しむことができるだろうと思われた。何より、平日の午前中（8時過ぎ）や午後（14時過ぎ）にもかかわらず、老若男女多くの来館者で賑わっていた点に大きな驚きを覚え、ヘルシンキ市民の生活の中に早くも「Oodi」が定着していることが見て取れた。

3. フィンランドの少子高齢化と独居率

視察では、「Oodi」がヘルシンキ市民の「憩いの場」として大いに活用されていることを確認することができたが、なぜこのような公共施設が必要なのかをフィンランドの少子高齢化と独居率という点から考えてみたい。

国際統計・国別統計専門サイト GLOBAL NOTE によると、2018年時点でのフィンランドの高齢化率は21.61%で世界5位（日本は27.47%で1位）、平均寿命（2017年、男女計）は81.43歳で世界26位（日本は84.10歳で2位）であり、長寿国に分類できる。平均初婚年齢（2017年）は男性33.9歳で世界10位、女性31.6

歳で8位（日本は男性31.1歳で26位、女性29.40歳で22位）と晩婚傾向にあり、合計特殊出生率（2017年）は1.57で世界168位（日本は1.43で184位）と低く、少子高齢化はフィンランドにおいても深刻な課題となっていることが分かる。

また、世帯構成比を見ると、単独世代が41.7%（日本は27.0%）と最も大きな割合を占めている。

朝日新聞 GLOBE+（2018年1月7日）によると、フィンランドの高齢者の独居率は日本の2倍近く、65歳以上の約3分の1にあたる35万人が一人暮らしをしており、国は高齢者の孤立を防ぐ「居場所づくり」に特に力を注いでいるという。ジェトロ・ヘルシンキによると、フィンランド政府は高齢者福祉サービスの3つの柱として「運動機能の低下防止」、「自立した生活」、「社会生活への積極的参加」を挙げている。

「居場所」を必要としているのは高齢者ばかりではない。成人年齢が18歳のフィンランドでは、高校卒業を機に親元を離れて生活することは珍しいことではなく、既述のように晩婚傾向にあるため、青年期から成人期にかけての独居生活期間も長くなると考えられる。充実した社会保障制度や教育制度、熱心な起業家育成制度等から、自立性や自主性がフィンランド人の特徴として注目されることが多い一方で、個を尊重する社会制度や国民性、長い冬が続く厳しい気候等からか、世界的に見てもフィンランドは自殺死亡率が高い国として知られており、孤立は高齢者を含め社会全体の課題となっているようだ。

表1：世帯構成比較単位

(%)

	ひとり親と 子だけの世帯	単独世帯	夫婦と未婚の 子だけの世帯	夫婦のみの 世帯	その他
フィンランド	1.7	41.7	18.2	31.7	6.7
日本	7.2	27.0	29.5	24.0	12.3

出所：eurostat「Private households by household composition 2018」、厚生労働省「平成29年 国民生活基礎調査の概況」

4. コンパクトシティの取り組み

国土交通省の報告書（2015）によると、フィンランド最大の都市であるヘルシンキは成長を続けており、ヘルシンキ地域14市町村にフィンランドの人口の26%が集中し、2013年に提案されたビジョン2050において、鉄道網、軌道敷等の更なる整備やヘルシンキのコンパクトシティ化が提案され、特に中心市街地では公共交通整備を充実させることが目標として掲げられている。また、人々を惹きつける要素として、居住地域、移動、産業活動、レクリエーション、緑、国際化、まちのコンパクト性が挙げられている。

中央市街地の公共交通整備が充実しているヘルシンキは、次世代移動サービス「MaaS（マース）」の先進地でもある。日本経済新聞（2019年7月3日）によると、マースとはバスや電車などの公共交通機関から自家用車、自転車まであらゆる移動手段をまとめてサービスとしてとらえる考え方で、スマートフォンアプリ「whim（ウィム）」は人口60万人のヘルシンキで6人に1人がダウンロードしており、ウィムのユーザーは平均的なヘルシンキ市民の1.3倍公共交通機関を使うようになったという。

コンパクトシティ化に加えて、公共交通機関やタクシー等の移動手段をより手軽に利用できるマースのようなサービスの充実は、高齢者はもちろん多くの市民にとって外出機会の拡大に繋がるものと考えられる。フィンランドの鉄道VRや地下鉄、トラム、バスターミナルなどが集まる首都ヘルシンキの交通の要衝であるヘルシンキ中央駅から徒歩5分程度の場所に立地する「Oodi」は、まさにコンパクトシティの中心にあり、マースの普及に伴い、今後より多くの人たちが気軽に立ち寄れる「市民の憩いの場」となることが期待される。

5. デジタル化時代の図書館の役割と可能性

今や一人一台とも言われるスマートフォンやタブレット端末等の急速な普及により、ちよっ

とした情報収集や調べものをしたり、新聞や書籍等を読んだりすることは、誰でもいつでも手元で簡単に行ってしまう時代である。そのような時代における公共図書館の役割とは何だろうか？「Oodi」公式HPの「サービス・施設」のページには、次のような記述がある。『Oodi』では、本を借りたり、雑誌を読んだり、ランチを楽しんだり、仕事をしたり、ブラブラしたり、映画を見たり、勉強したり、会議をしたり、イベントを開催したり、ワインを楽しんだり、EUの活動について学んだり、音楽を創ったり、友達と会ったり、カーテンを縫ったり、子供と遊んだり、ボードゲームで遊んだりすることができます。」筆者が実際に訪問した際にも、一人で／友人同士で／家族で／グループで、静かに／賑やかに、仕事や勉強に取り組んだり／何もせずくつろいだり・・・来館者それぞれが自由に、且つ他とゆるやかに調和しながら時間と場所を共有している様子を見ることができた。何かの目的を持って来館する場合は、必要な空間や資料、機材、アドバイス等を受けることができ、目的を持たずに来館しても、安全で心地よくくつろぎの場や、新たな発見や出会い、適度な賑わいを享受することができる。当然ながら、すべてのサービスは誰でも無料で受けることができる。既述のように、単身世帯が40%強というフィンランドにおいて、公共図書館は、身近で安全な「居場所」の一つとしての大きな役割を担っているようだ。

6. まとめ

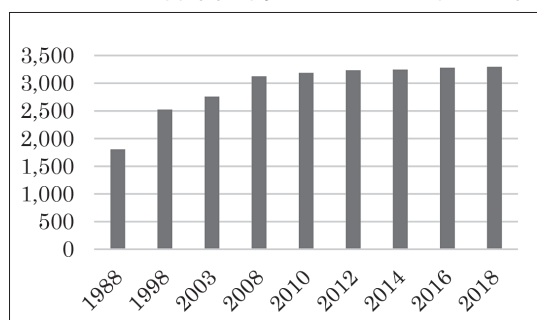
国立社会保障・人口問題研究所の推計（2018）によると、未婚率の増加や核家族化の影響を受けて、日本でも単身世帯が増加しており、2040年にはその割合が40%に達すると予測されている。特に65歳以上の単身世帯数が顕著である。『高齢社会白書』（2019）によると、我が国の65歳以上の独居率は男女ともに増加傾向にあり、2015年時点で男性約192万人、女性約400万人、

手嶋 恵美

65歳以上人口に占める割合は男性13.3%、女性21.1%となっている。また、65歳以上の高齢者を対象にした内閣府の調査（2014）によると、会話の頻度が「1週間に1～3回」と回答した人は全体の32.2%、「1か月に1、2回」と回答した人は6.3%、「ほとんど話をしない」という人も6.1%いることが確認された。また、孤独死について身近に感じるかを聞いた結果として、「とても感じる」が14.5%、「まあ感じる」が30.1%と回答し、一人暮らしの高齢者の4割以上が孤独死を身近に感じている現状が確認された。さらに、文部科学省の調査（2019）によると、小中学校の不登校児童生徒数は平成25年度より年々増加しており、平成30年度は全体の1.69%、全国で16万人超が学校に行くことができない状態であるという。核家族やシングル世帯も増加傾向にあり、また、転勤や転職も珍しくない時代において、いわゆる血縁・地縁・社縁という結びつきが薄れてきている。我が国においても、社会的孤立は大きな課題であり、安全で安心できる「居場所」作りは早急に取り組むべき対策の一つであると言える。

最後に、人々が安心して集うことができる「居場所」の一つとしての図書館の可能性について考えてみたい。図1に示すように、我が国の公共図書館数は1988年の1,805館から2018年には3,296館と、過去30年間で1.8倍に増加している。

図1：公共図書館経年変化 単位（館）

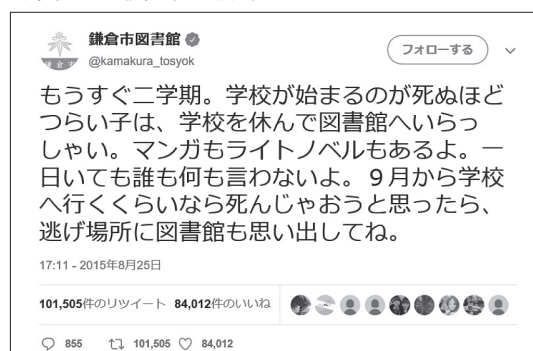


出所：日本図書館協会

また、日本図書館協会の調べでは、2018年時点で大学図書館は国立・公立・私立大学合計で全国に1,427館あり、その多くが地域住民にも開放されている。

2015年8月、鎌倉市図書館が公式Twitterを通じて、「学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい。」と呼びかけ、大きな話題となった。賛否両論様々な意見が飛び交ったが、「図書館は本の貸し出しをする施設」というこれまでの概念に対し、「特に目的がなくても来ていい場所」というメッセージを世間に投げかけたことは、行政や学校、保護者、地域住民等、一人一人がそれぞれの立場から図書館の在り方について改めて考える大きなきっかけとなったと言えるだろう。

写真9：鎌倉市図書館のツイート



出所：鎌倉市図書館公式Twitter（2015/8/25）

我が国では、公共図書館の増加や大学図書館の地域への開放等、ハード面は充実している一方で、より気軽に自由な図書館利用に向けたソフト面での取り組みについては一層の前向きで柔軟な議論が必要だと筆者は考える。ヘルシンキ中央図書館「Oodi」の素晴らしい取り組みを参考に、少子高齢化社会における図書館の役割や可能性について、今後も探究を重ねていきたい。

<参考文献>

- ・Public Library of the Year、国際図書館連盟 (IFLA) HP
<https://www.ifla.org/node/29023>
- ・「フィンランド共和国概況」(5. フィンランドの医療と高齢者福祉)、ジェトロ・ヘルシンキ
- ・フィンランド政府観光局、プレスリリース (2018年12月5日)
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000017830.html>
- ・「Oodi」公式 HP
<https://www.oodihelsinki.fi/en/>
- ・「Private households by household composition 2018」、eurostat
[https://www.pordata.pt/en/Europe/Private+households+by+type+of+household+composition+\(percentage\)-1629](https://www.pordata.pt/en/Europe/Private+households+by+type+of+household+composition+(percentage)-1629)
- ・「平成29年度国民生活基礎調査の概況」、厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa17/dl/02.pdf>
- ・「孤独は孤立ではない—フィンランドから学べること」、朝日新聞 GLOBE +、2018年1月7日
<https://globe.asahi.com/article/11529821>
- ・「日本の世帯数の将来推計」、2018年、国立社会保障・人口問題研究所
http://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2018/hprj2018_gaiyo_20180117.pdf
- ・『令和元年度版高齢社会白書』、2019年、内閣府
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/html/zenbun/s1_1_3.html
- ・「平成26年度一人暮らし高齢者に関する意識調査」、2014年、内閣府
<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h26/kenkyu/zentai/index.html>
- ・国際統計・国別統計専門サイト GLOBAL NOTE
<https://www.globalnote.jp/>
- ・「諸外国の国土政策・地域政策に係る動向分析及び支援方策等に関する調査 国別報告書〔フィンランド〕」、2015年3月、国土交通省国土政策局
https://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/international/spw/report/1504_finland.pdf
- ・「主要国等の自殺死亡率の推移」、『平成29年版自殺対策白書』、厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/jisatsu/17/index.html>
- ・「平成30年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について」、2019年10月、文部科学省初等中等教育局児童生徒課
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/10/_icsFiles/afieldfile/2019/10/17/1410392.pdf
- ・「日本の図書館統計 (2018)、公共図書館」、日本図書館協会
<http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/図書館調査事業委員会/toukei/公共経年2018.pdf>
- ・「日本の図書館統計 (2018)、大学図書館」、日本図書館協会
<http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/図書館調査事業委員会/toukei/大学集計2018.pdf>
- ・鎌倉市図書館公式 Twitter (2015年8月25日)
https://twitter.com/kamakura_tosyok/status/636329967668695040